

猪の瀬戸湿原便り

第1号

平成21年3月9日 発行：猪の瀬戸湿原再生実験野焼き実行委員会事務局

実験区へ火入れ

3月8日（日）いつもの集合場所、城島高原のRVアメリカに23名が集合しました。

猪の瀬戸湿原へ移動して、渡辺格雄氏（タゲ原野焼き実行委員会）と弘蔵岳久氏（坊ケツル野焼き実行委員会）の指導のもと、実験区として設定したオギ群落、ヨシ群落、ツルヨシ群落の火入れ区を焼きました。最も心配なことは周辺への類焼で、消火用具としてジェットシューター9機、火ぼて20本、バケツ20個を準備していました。

10月に輪地切りをしていたので、強風でなければ大丈夫と思いつつも、炎が高く燃え盛るとかなりの高温になります。数日前の雨で地面はやや湿っていましたが、地上の枯れた植物に火がつくと一気に高く燃え上がり野焼き作業を体験できました。今後、この火入れ区と刈り取り区、放置区で植物の成長にどのような違いが表れるか調査結果を注目しましょう。



ツルヨシ群落を焼く

植生調査は植物の活動が始まる5月から開始します。第1回は26日（火）の午後を予定しています。全員が集まるのは10月下旬に予定している輪地きりの時です。近づいたらまた連絡します。

カンパありがとうございました

3月8日火入れ活動の日に次の方々から活動運営資金としてカンパをいただきました。純粹のボランティア活動として歩んでいますので大変助かります。通信費等に有効に使いたいと思います。

（御芳名：順不同）池田滝子、川野弘人、首藤宏史、中村茂、
渡辺新十郎、相田展正、波多野英哲
ありがとうございました。



火入れ前のツルヨシ群落

「猪の瀬戸湿原便り」の発行について

猪の瀬戸湿原再生実験野焼き実行委員会を発足させましたが、皆さんの集まる機会は今のところ、年2回しかありませんので、現況報告などの連絡が十分とれません。それを補う手段として、不定期にはなりますが「猪の瀬戸湿原便り」をお届けすることにいたしました。いろいろご意見をお聞かせください。